

様式8

「学校」部門

河川基金助成事業

「日本らしい自然の再生」 報告書

助成番号：2022 - 7211 - 002

江戸川区立小松川小学校

校長 末松 睦士

2022 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2022-7211-002	日本らしい自然の再生		江戸川区立小松川小学校			
所在地	東京都江戸川区平井4-1-23	対象河川名	荒川			
対象学年	4学年(57人) 5学年(59人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	<p>小学校に隣接する荒川下流域のスーパー堤防には外来植物が多く、日本にもともとあった在来植物が少ない。荒川下流域の小学生が、荒川上流域から取得した絶滅の恐れのある種子や株を育てる。荒川中流域の荒川太郎衛門自然再生地へ、外来植物を取り除いた後のギャップに在来植物を移植する方法(汐入方式)で日本らしい自然の緑を再生し、児童に在来植物・外来植物、生物多様性などについて考えさせる機会とする。</p>					
育成したい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、調べたいことを決めることができる 調べたいことについて研究計画を立てられる 資料を集め、必要な情報を探し、記録できる 記録を整理し新聞にまとめ、お互いに読みあう 					
学習活動の内容と成果						
<p>『私達が絶滅危惧種を育てるなんて、思ってもいませんでした。4年生から5年生まで、たくさんのことを学びました。4年生では「日本らしい自然」について知ったり、新聞にまとめたり、5年生では川島町立つばさ北小学校と南小学校に小松川小の取り組みを教えたり、カワラナデシコの苗を渡したり、たくさんことをやりました。私たちが育てたカワラナデシコの苗が、少しでも自然を豊かにできればいいなと思いました。このような活動がもっと増えればいいなと思いました。』(A児の学習感想)</p> <p>『私は、今回、自然は大切に扱わなければいけないのだと、改めて思いました。家で育てていた、絶滅危惧種のカワラナデシコとキキョウは、無事、芽や花が咲きました。小松川小学校の5年生と、川島町立つばさ北小学校・南小学校の3・4年生が、荒川太郎衛門自然再生地に植えたカワラナデシコもきれいに咲くといいなと思いました。絶滅危惧種がたくさんよみがえり、自然が豊かな街になったら良いです。』(B児の学習感想)</p> <p>秋の七草のカワラナデシコとキキョウの苗を一人一株ずつ児童に渡し、家に持ち帰ってお世話をしたことで、在来植物を身近に感じ、興味・関心を持つことができた。また、児童は、ビオトープの外来植物を抜き取ったギャップに、在来植物を移植する「汐入方式」の活動を行うことで、絶滅の恐れのある生き物への保全活動に興味・関心を持つことができた。「在来植物」「保全活動」「絶滅危惧種」など、調べたいテーマを決めて新聞にまとめ、お互いに見合うことができた。</p>						
学びの創意工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 川島町立つばさ北小学校、川島町立つばさ南小学校に、本校児童の育てたカワラナデシコの植木鉢を送り、3校でオンライン交流会を行った。本校児童がこれまでの活動について発表した。 江戸川区立小松川小学校児童が、荒川太郎衛門自然再生地に行き、カワラナデシコの移植を児童が行った。荒川大麻生のカワラナデシコを移植し、再生させることができた。 					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	<ul style="list-style-type: none"> 荒川河川流域の生き物に興味を持たせることができた。自然に興味がないと話していた児童にも、荒川の生き物に関心を持たせることができた。 「日本らしい自然」について調べ、深く考えさせることができた。 					
支援者等(複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関(博物館、資料館)等		関係団体(漁協、農協)等		企業	その他
支援の概要	<ul style="list-style-type: none"> エスベックミック株式会社に在来植物の苗づくりを委託した。 東京大学大学院農学生命科学研究科の根本正之先生に学習のまとめの授業をしてくださった。 埼玉県生態系協会の堂本泰章先生に2校との橋渡しと活動への支援・助言をしていただいた。 					
成果発表	成果作品		発表方法			
	児童による『日本らしい自然の再生』の動画発表 論文発表『日本らしい自然の緑の再生』		つばさ北小学校・南小学校とのオンライン交流会で発表、学校ホームページで動画を紹介 あらかわ学会2022「奨励賞」受賞			
今後の課題・展開						
<p>小学校の担当者が異動すると、活動を継続することが難しくなることがこれまで多かった。活動を継続させるためには地域の方々と連携していく必要がある。今後の展開として、荒川区の地域の方々と連携し、南千住駅前ロータリーに在来植物を移植することを検討している。</p>						

・キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

河川教育学習活動報告書 【単学年】





(NO. 1)

1.助成事業名	日本らしい自然の再生	学校名	江戸川区立小松川小学校	助成番号	2022-7211-002						
2.河川教育の目標	荒川下流域の小学生が、荒川上流域から取得した絶滅の恐れのある種子や株を育てる。荒川中流域の荒川太郎右衛門自然再生地へ、外来植物を取り除いた後のギャップに在来植物を移植する方法（汐入方式）で日本らしい自然の緑を再生し、児童に在来植物・外来植物、生物多様性などについて考えさせる機会とする。										
3.育成したい資質・能力	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力										
4.単元構想	4 学年 5 7 人 5 学年 5 9 人 《テーマ》日本らしい自然の再生										
月	4 学年 4 月	4 学年 5 月	4 学年 6 月	4 学年 7 月	4 学年 8 月	4 学年 9 月	4 学年 1 0 月	4 学年 1 1 月	4 学年 1 2 月	4 学年 1 月	4 学年 2 月
単元目標	単元名：日本らしい自然の再生										
	荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、調べたいことを決め、研究計画を立て、資料を集め、必要な情報をさがし、記録し、記録を整理しまとめ、お互いに読みあう。										
	関連教科：総合的な学習の時間										11 時間
主な学習活動	<p>【3時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在来植物のカントウタンポポと外来植物のセイヨウタンポポを比べ、同じところと違うところを観察する。 ・児童が、秋の七草のカワラナデシコなど、東京都で絶滅の恐れのある植物を自分の植木鉢で育て、夏休みに自宅に持ち帰ってお世話をする。 			<p>【6時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習を行い、在来・外来植物、生物多様性、半自然、絶滅危惧など、自分の決めたテーマについて調べ、新聞にまとめてお互いに読みあう。 ・東京大学大学院農学生命科学の根本正之先生の出前授業を聞き、学習のまとめをしていく。 				<p>【2時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花の終わったさやから、児童は種子を採取し、発芽させる。児童は、来年度の4年生に引継ぎをする。 			
	評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川の在来植物に、興味・関心を持って活動している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・荒川の在来・外来植物、生物多様性、半自然、絶滅危惧などについて、調べたいことを決める。 ・調べたいことについて研究計画を立てる。 ・資料を集め、必要な情報を探し、記録する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、興味・関心を持って活動している。 		

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

河川教育学習活動報告書 【単学年】

(NO. 2)

1.助成事業名		日本らしい自然の再生									学校名		江戸川区立小松川小学校					助成番号		2022-7211-002										
5.実際にを行った単元構成 【単学年】 4学年の単元構成を【複数学年】の4・5学年の単元構成に変更した。 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。																														
月	4学年 4月	4学年 5月	4学年 6月	4学年 7月	4学年 8月	4学年 9月	4学年 10月	4学年 11月	4学年 12月	4学年 1月	4学年 2月	5学年 4月	5学年 5月	5学年 6月	5学年 7月	5学年 8月	5学年 9月	5学年 10月	5学年 11月	5学年 12月	5学 1									
単元目標	単元名：日本らしい自然の再生 荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、調べたいことを決め、研究計画を立て、資料を集め、必要な情報をさがし、記録し、記録を整理しまとめ、お互いに読みあう。 関連教科：総合的な学習の時間 11時間											単元名：日本らしい自然の再生 荒川の自然を守るためにはどうすればよいかを考え、資料を集め、必要な情報を探し、記録を整理し、意見文を書いて発表をする。 関連教科：総合的な学習の時間 11時間																		
	【3時間】 ・在来植物のカントウタンポポと外来植物のセイヨウタンポポを比べ、同じところと違うところを観察する。 ・児童が、秋の七草のカワラナデシコなど、東京都で絶滅の恐れのある植物を自分の植木鉢で育て、夏休みに自宅に持ち帰ってお世話をします。											【6時間】 ・調べ学習を行い、在来・外来植物、生物多様性、半自然、絶滅危惧など、自分の決めたテーマについて調べ、新聞にまとめてお互いに読みあう。 ・東京大学大学院農学生命科学の根本正之先生の出前授業を聞き、学習のまとめをしていく。					【2時間】 ・花の終わったさやから、児童は種子を採取し、発芽させる。児童は、来年度の4年生に引き継ぎをする。					【3時間】 ・荒川中流域の川島町では、カワラナデシコが見られなくなっていることを伝え、日本の在来・外来植物に興味・関心をもたせる。 ・児童が、「カワラナデシコを再生させよう」と全校児童に呼びかけ、カワラナデシコの植木鉢をつくる。					【8時間】 ・川島町立つばさ北小学校・つばさ南小学校の児童に、児童の育てたカワラナデシコを渡し、交流をする。これまでの小松川小学校の児童の活動をオンラインで発表する。 ・荒川中流域にある、太郎右衛門自然再生地のセイタカアワダチソウといった外来植物を抜き、児童の育てたカワラナデシコを移植する（汐入方式）。 ・荒川の自然を守るためにはどうすればよいか、必要な情報を集め、意見文を書く。友達の見聞を聞いて自分の考えを深める。 ・埼玉県生態系保護協会の堂本泰章先生の話聞き、学習のまとめをする。			
主な学習活動																														
	・荒川の在来植物に、興味・関心を持って活動している。 											・荒川の在来・外来植物、生物多様性、半自然、絶滅危惧などについて、調べたいことを決める。 ・調べたいことについて研究計画を立てる。 ・資料を集め、必要な情報を探し、記録する。 ・記録を整理し新聞にまとめ、お互いに読みあう。					・荒川の在来植物・外来植物、生物多様性などについて、興味・関心を持って活動している。					・荒川の上・中・下流の在来・外来植物について、興味・関心を持って活動している。 ・荒川の自然を守るためにはどうすればよいかを考え、資料を集め、必要な情報を探し、記録する。 ・調べた資料や記録を整理し、意見文を書いて発表をする。 ・友達の見聞を聞いて、自分の考えを深める。								
評価の観点											評価の観点																			
6. 得られた成果											7. 河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果																			
秋の七草のカワラナデシコとキキョウの苗を一人一株ずつ児童に渡し、家に持ち帰ってお世話をしたことで、在来植物を身近に感じ、興味・関心を持つことができた。また、児童は、ピオトープの外来植物を抜き取ったギャップに、在来植物を移植する「汐入方式」の活動を行うことで、絶滅の恐れのある生き物への保全活動に興味・関心を持つことができた。「在来植物」「保全活動」「絶滅危惧種」など、調べたいテーマを決めて新聞にまとめ、お互いに見合うことができた。											荒川は埼玉県・東京都を流れ、東京湾にそそぐ河川である。荒川の中流域の児童（川島町立つばさ北・南小学校）と下流域（江戸川区立小松川小学校）の児童が、オンラインで交流することができた。その後、児童は荒川太郎右衛門自然再生地に荒川大麻生のカワラナデシコを移植し、「日本らしい自然の再生」をすることができた。児童は荒川河川中流域の生き物と下流域の生き物の違いについて比較し、考えることができた。また、荒川の自然を守るためにはどうすればよいかを考えることができた。																			

助成番号	助成事業名	学校名
2022-7211-002	日本らしい自然の再生	江戸川区立小松川小学校・末松睦士



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：5月（4学年）

見られた子どもの姿：

小松川小学校には、カントウタンポポ広場があります。東京大学大学院農学生命科学研究科の根本正之先生から、カントウタンポポの苗を分けていただきました。今年度から、4年生がカントウタンポポの種を取って、苗を育てています。私たちは、在来植物のカントウタンポポと外来植物のセイヨウタンポポを比べ、同じところと違うところを観察することからはじめました。



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：7・8月（4学年）

見られた子どもの姿：

児童は、夏休み中に、カワラナデシコとキキョウの苗を、家に持ち帰って観察しました。夏休みの終わりに、児童用アイパッドの Teams のソフトを使い、家にあるナデシコとキキョウの写真を投稿しました。キキョウの花を咲かせた児童もいました。



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：9月（5学年）

見られた子どもの姿：

川島町立つばさ北小学校と川島町立つばさ南小学校と本校の3校でオンライン交流会を行いました。小松川小学校で育てたカワラナデシコの植木鉢を2校に渡し、これまでの活動を児童が発表しました。

注) 写真は校外や学校・教室内での学習活動ごとに添付してください（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名
2022-7211-002	日本らしい自然の再生	江戸川区立小松川小学校・末松睦士



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：10月（5学年）

見られた子どもの姿：

「子供たちと自然をつなぐ体験活動プロジェクト」として、埼玉県生態系保護協会のお力添えもあり、公益財団法人サイサン環境保全基金の支援を受けて、荒川太郎右衛門自然再生地に行き、カワラナデシコを移植することができました。ここでは、たくさんの生き物を観察することができました。



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：11月（4学年）

見られた子どもの姿：

東京大学大学院農学生命科学研究科の、根本正之先生が「日本らしい自然の再生」をテーマに、まとめの授業をしていただきました。「日本らしい自然の再生」、「自然」、「人工」、「半自然」とは何かを、教えていただきました。



学習活動名：総合的な学習の時間

日付：2月（4学年）

見られた子どもの姿：

カワラナデシコは9月ごろ、キキョウは10月ごろ、花が咲き終わって茶色になったさやから、種を取り出します。鉛筆の先を使って、蒸発皿の中に種を取り出します。種以外の部分は、カビが生えてしまうかもしれないので、捨ててしまいます。蒸発皿にそっと息を吹きかけると、種だけが残ります。封筒に入れて冷蔵庫の中に保管します。



QRコードを読み込むと、
児童が動画で「日本らしい自然の緑の再生」について説明をします。

助成番号	助成事業名	学校名
2022-7211-002	日本らしい自然の再生	江戸川区立小松川小学校・末松 睦士

主な実施箇所 江戸川区立小松川小学校 荒川太郎右衛門自然再生地

※環境学習を数カ所で実施している場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万~1/100万程度) ※活動場所が「子どもの水辺」、「水辺の楽校」に指定されている場合には、指定場所と名称を記載してください。



助成事業の主な実施箇所

日本らしい自然の緑の再生

江戸川区立小松川小学校

鈴木 郁

総合的な学習の時間「日本らしい自然の緑の再生」について、江戸川区立小松川小学校で4・5年生が学習したことを発表します。地図から見ると、埼玉県の熊谷にある大麻生公園と、江戸川区立小松川小学校、川島町立つばさ北小学校、川島町立つばさ南小学校は、荒川でつながっていることがわかります。12年前の2011年、埼玉県の大麻生公園のカワラナデシコの種を、担任の鈴木が、三ツ又沼ビオトープで活動する荒川の自然を守る会の菅間宏子先生からもらいました。小松川小学校4年生は、現在まで、種を苗にして保全する活動をしています。川島町立つばさ北小学校、川島町立つばさ南小学校の皆さんには、小松川小学校で育てた、カワラナデシコを渡しました。

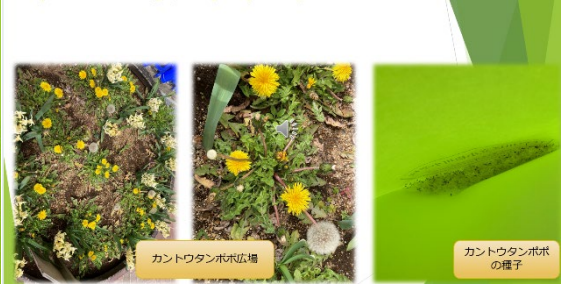


小松川小学校正門横のビオトープには、小松川小学校でこれまで育ててきた、在来植物が植えてあります。秋の七草のカワラナデシコ、秋の七草のオミナエシ、秋の七草のキキョウ、ワレモコウ、ノアザミ、ヤブカンゾウ、チカラシバ、秋の七草のススキなどが、見られるようになりました。正門横の掲示板を使って、学校に来た人にも在来植物の紹介し、花を見て楽しんでもらっています。

小松川小学校の在来植物



小松川小学校の在来植物



小松川小学校には、カントウタンポポ広場あります。東京大学大学院農学生命科学研究科の根本正之先生から、カントウタンポポの苗を分けていただきました。今年度から、4年生がカントウタンポポの種を取って、苗を育てています。昨年度、児童は、在来植物のカントウタンポポと外来植物のセイヨウタンポポを比べ、同じところと違うところを観察することからはじめました。児童のかいた、観察カードの一部を紹介します。

調べた植物 カントウタンポポ セイヨウタンポポ

調べた日 5月10日

調べた時刻 8時50分 天気晴れ 気温25°

セイヨウタンポポは花が大きい。白い毛が生えている。セイヨウタンポポのがくが大きくて、皮みたいなのがむけている。くきの色が違う。

セイヨウタンポポは、がくが広がっていて、カントウタンポポは、がくが閉じていることに、違いがあることがわかりました。



次に、種から苗をどのように発芽させるか、説明をします。カワラナデシコは9月ごろ、キキョウは10月ごろ、花が咲き終わって茶色になったさやから、種を取り出します。鉛筆の先を使って、蒸発皿の中に種を取り出します。種以外の部分は、カビが生えてしまうかもしれないので、捨ててしまいます。蒸発皿にそっと息を吹きかけると、種だけが残ります。封筒に入れて冷蔵庫の中に保管してください。カワラナデシコのさやを、つばさ北小学校、つばさ南小学校の皆さんにお渡ししました。ぜひ種取りをやるようお話ししました。

毎年、昨年度の4年生から種をもらい、次の4年生へ種を渡しています。種が取れたら、育苗箱で発芽させます。育苗箱の底に赤玉土をしいて、水はけをよくします。その上に、芝の目土2：腐葉土1の割合で、土を入れます。代わりに、黒土をしいてもできました。種をまいて、水やりをします。2月ごろに植えると、5月末の梅雨入り前に植えられます。室内の日当たりの良い場所に置いておくと、他の植物の種が入ったり、虫がついたりすることがほとんどありません。長いお休みがある日には、トレーに水をひたし、こし水にしておきます。苗が大きくなったら、牛乳パック植木鉢か、移植したい場所へ株を移植することができます。移植は、梅雨入り前に、移植するのがお勧めです。なぜなら、梅雨の雨が、水やりの代わりにしてくれるからです。

カワラナデシコとキキョウの種を取る。
えんぴつの先を使い、じょうはつ皿の
中に種を取りだす。種以外はすてる。



- ①育苗箱の底に赤玉土を置く。
 - ②赤玉土の上に芝の目土2：腐葉土1を入れる。
赤玉土の上に黒土でもできる。
 - ③種をまいて水やりをする。
- 長いお休みがある日は、底のトレーに水をひたして
腰水にしてもできる。この時点で移植できる。



小松川小学校の全校児童352名が、大きくなったカワラナデシコとキキョウの苗を、牛乳パック植木鉢に植えかえています。失敗した時のために、エスペックミック株式会社に種を封筒に入れて送り、苗作りのお願いをするとよいです。エスペックミック株式会社に、メールで相談してください。

全校児童が大きくなった苗を、牛乳パック植木鉢に移植した。失敗した時のために、エスペックミック株式会社に種を送って、苗作りをお願いするとよい。



カワラナデシコとキキョウを、
夏休み中に家に持ち帰って観察する。



児童は、夏休み中に、カワラナデシコとキキョウの苗を、家に持ち帰って観察しました。夏休みの終わりに、児童用アイパッドのTeamsのソフトを使い、家にあるナデシコとキキョウの写真を投稿しました。キキョウの花を咲かせた児童もいました。カワラナデシコとキキョウは、根で冬を越すので、枯れてしまっても捨てないで、そのままにしてください。また春に芽が出てきます。

夏休みが明けて、二学期です。児童は、ウェビングマップに「秋の七草」、「在来植物」、「外来植物」、「自然保護」といったキーワードを書き出しました。その中から自分のテーマを決め、本やインターネットを使って調べ学習をしました。そして、新聞を書いてわかりやすくまとめ、発表をしました。児童の作った新聞を紹介します。

私は自然が大好きなので、この秋の七草をテーマにしました。どれもそれぞれの素敵な特徴を持っていることが分かりました。そして、それぞれの生息しているところも違いました。私は、秋の七草とは、色々なそれぞれの特徴を持ち、それぞれの気持ちを与えてくれる、魔法のような植物だと思いました。

秋の七草が減ってきていることが分かったので、これからは、よりもっと、植物を大切にしようと思いました。積極的に外に出ると、川沿いの道に、植物の花がたくさん咲いていたので、秋の七草を探してみたいです。

秋の七草を知り、絶滅のおそれがあるので、自然を大切にしていきたいです。秋の七草の漢字や特徴など、知らないことがたくさんあって、びっくりしました。本物の花もじっくり観察してみたいです。

秋の七草のほとんどが、絶滅危惧種だとわかり、驚きました。キキョウやナデシコは、家で育てているので、毎日水やりをして絶滅危惧種を増やし、自然がいっぱいの街にしたいです。



その後、東京大学大学院農学生命科学研究科の、根本正之先生が「日本らしい自然の再生」をテーマに、まとめの授業をしていただきました。「日本らしい自然の再生」、「自然」、「人工」、「半自然」とは何かを、教えていただきました。ここで、授業後に児童が根本先生に宛てて書いた、手紙を紹介します。

日本らしい自然について、私たちが知らないことを詳しく教えてくれたので、よく分かりました。私が驚いたのは、外来植物は全て悪いものだと思っていたけれど、すべて悪いわけではなく、侵略的外来植物が在来植物の場所をうばっていると聞いて、そうなんだと、思いました。そして、どうして入ってきたのだろうと思っていたけれど、知らない間に人が持ち込んでいたと聞いて驚きました。私はこれから植物について、図鑑などを使って調べたいと思いました。

日本らしい自然について教えていただき、ありがとうございました。私は初め、外来植物は全て悪いと思っていました。しかし、根本先生に教えてもらい、外来植物はすべて悪いわけではないとわかりました。私は、カワラナデシコやキキョウを育ててみて、花を咲かすことができませんでした。しかし枯れなかったので、良かったです。水の量や土の量が難しかったです。時々水をあげすぎたので、それで花が咲かなかったのかなと思いました。

花のいろんなことがわかりました。外来種は全部悪いのではないことがわかりました。日本の自然と日本らしいが違うことが分かり、外来種は良いものと悪いものがあることがわかりました。そして在来種は、昔から身近に入っていた草や木だとわかりました。カワラナデシコやキキョウを育ててみて、簡単じゃないことがわかりました。毎日水やりをしないと

いけないし、夏休みに、泊まりに行くときは、水やりをしないから、しおれてしまって失敗するし、すごく大変でした。でも花がきれいに咲いて、すごくよかったです。なので、もう一回花を育てたいと思いました

根本先生は、『在来野草による緑化ハンドブック』という本で、カワラナデシコやキキョウ以外にも、様々な在来植物の育て方を載せています。ぜひ読んでください。



浅草七福神の一つである、石浜神社の庭には、小松川小学校の4年生児童が育てた、秋の七草のカワラナデシコ、秋の七草のキキョウが、花を咲かせています。その他にも、オトギリソウ、ホタルブクロ、ヤブカンゾウ、カントウタンポポなどの在来植物が花を咲かせました。参拝客の皆様の日を、楽しませています。

担任の鈴木が、以前勤めていた荒川区立汐入小学校でも、隅田川のスーパー堤防に、在来植物を植える活動を、今も行っていきます。2011年は、シバ型の草地でした。その後、活動が続け、秋の七草のカワラナデシコ、秋の七草のキキョウ、秋の七草のオミナエシ、秋の七草のススキ、大麻生公園からいただいたカワラサイコなどが花を咲かせ、スーパー堤防の近くを散歩する人や、ランニングする人を楽しませています。



これまで、セイタカアワダチソウなどの、侵略的外来植物を取り除く活動は、全国で行われてきました。しかし、頑張って取り除いても、残念ながら次の年には、セイタカアワダチソウが生えてきてしまうことが多かったです。しかし、汐入小学校が行う「汐入方式」では、

セイタカアワダチソウなどの侵略的外来植物を抜いた後のギャップに、小学生の育てたカワラナデシコなどの在来植物を植えています。毎年、花を咲かせ、これまであったのになくなったしまった場所に、在来植物を小学生が再生させています。



三ツ又沼ビオトープで、長い間保全活動を行い、環境省から「みどりの日」に、自然環境功労者環境大臣表彰をされた、荒川の自然を守る会の菅間宏子先生から、担任の鈴木は、いろいろなことを教わりました。菅間先生の『上尾とその周辺の植物』の本を読むと、カワラナデシコは、残念ながら絶滅したことがわかります。カワラナデシコについて書かれてある部分を紹介します。

「林の縁やあぜ道で咲いているのをよく摘んで遊んだっけ」と、なつかしむ方が大勢いらっしゃいます。「いつの頃だったか、気がついて探してみても、一本として見つけることができなくなっていた。それも50年も前のこと」と残念そうに話していました。



その後、上尾とその周辺に、これまであった在来植物であるカワラナデシコを、つばさ北小学校とつばさ南小学校の皆さんが、太郎右衛門自然再生地と三ツ又沼ビオトープに移植してくれました。小松川小学校児童も「子どもたちと自然をつなぐ体験活動プロジェクト」として、埼玉県生態系保護協会のお力添えもあり、公益財団法人サイサン環境保全基金の支援を受け、太郎右衛門自然再生地に行ってカワラナデシコを移植することができました。

小松川小学校ではこの活動をずっと引きつぎ、続けています。つばさ北小学校、つばさ南小学校でも、がんばって育ててくれています。どうもありがとうございました。



QRコードを読み込むと、動画で「日本らしい自然の緑の再生」について説明をします。